

岡山県の新都心を創る 全国屈指の福祉先駆都市へ



総社市長
片岡 聡一
KATAOKA SOICHI

10月4日に行われた総社市長選挙。開票の結果、片岡聡一市長が再選を果たし、3期目の市政運営がスタートしました。3期目の任期は、10月14日から4年間です。

選挙結果		
当	片岡 聡一 (56)	19,697 票
	竹内 洋二 (65)	9,630 票
投票率		
		55.28%

総社市をさらに前進させる

3期目スタート

引き続き市政のかじ取りを担うにあたり、改めて責任の重さを痛感し、身が引き締まる思いです。これからも市民の声に耳を傾け、謙虚な姿勢で市政運営を行ってまいります。より良い総社市実現のため、引き続き市民の皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3期目を迎えた片岡市長が語る

テーマは「希望」

◆ 目指す都市像

全国屈指の「福祉先駆都市」を目指します。高齢者や障がい者、子育て世帯の女性など、社会のなかで本当に困っている人を支え、寄り添っていけるような優しいまちを創っていきます。

◆ 福祉先駆都市へ

弱い立場にある人たちのために全力を尽くすまちが福祉先駆都市です。子どもからお年寄りまで切れ目なく、全国屈指の優しさといわたりを提供します。市民にとって必要な、既存の制度にとらわれず、総社市独自の福祉政策に取り組んでいきます。



市内の障がい者就労施設で働く利用者。働くことに生きがいを感じながら、一生懸命取り組んでいる

人暮らしをしている高齢者がたくさんいます。そのよう

な人たちに對して、孤独や不安を解消し、寄り添いあう体制を早急に検討していきます。

また、市ではこれまで障がい者千人雇用という独自の政策を行ってきました。9月1日現在の就労者数は882人。目標の1000人を目指し、引き続き取り組んでいきます。同時に、発達障がいの子どもに対する政策も始めていきます。幼児期から義務教育課程のなかで、社会性が養える総社市の仕組みを築いていきます。

◆ 躍動感のある総社市

総社市は今、まちの姿が変わろうとしています。企業誘致が進み、2年以内に雇用が3500人増えていきます。そのような人々たちを総社市に定住させていく政策を行っていきます。雇用



岡山県立大学周辺の様子。吉備線のLRT化や学園都市を実現させ、魅力あるまちを目指す

が増え、人口が増え、出生数が増えるという良い循環を生み、躍動感のあるまちを創ります。

また、企業誘致をさらに推し進め、魅力あるまちづくりをしていくためには、吉備線のLRT化は実現すべきだと考えます。現在、吉備線の沿線はほとんどが農地。ここに学園都市や住宅地を整備していくという夢をもちながら、これから市民としっかり議論を重ねていきます。その上で課題である農地の用途変更については、国や県に粘り強く訴えていき、総社市の新たなランドデザインを描いていきます。

◆ 救急医療体制の充実

市では、倉敷中央病院、倉敷平成病院、川崎医科大学附属病院に市内の重篤患者や3次救急を委ねる協定を締結しています。今後、民間による、回復期や2次救急の病院建設についての検討を始め、市民が安心して暮らせる環境をさらに整備してまいります。

◆ 市民へメッセージ

現状に満足することなく、総社市をよりよいまちにしていくため、変化していくことを恐れず、勇気ある決断をしていきたいと思っています。そして困っている人や弱い立場にある人が希望をもって生きていけるまちを、先頭に立って実現させていきます。

掲載しきれなかったインタビューの概要は、市ホームページで公開しますので、ご覧ください。